

2022 年卒
Vol. 05

3 月 1 日時点の就職活動調査

キャリアス就活 2022 学生モニター調査結果 (2021 年 3 月発行)

2022 年卒の採用広報が 3 月 1 日に解禁され、多くの学生が就職活動を本格的にスタートさせた。コロナ下の就職戦線も 2 年目となるが、収束の見通しが立たない中で、どのようなスタートを切っただろうか。キャリアス就活・学生モニターを対象に、解禁直後の就職活動状況や意識について調査を行った。

1. 3 月 1 日時点の志望業界

○1 位「情報処理・ソフトウェア」、2 位「インターネットサービス」、3 位「銀行」

2. エントリー状況

○一人あたりのエントリー社数の平均は 23.3 社。前年調査 (21.6 社) より 1.7 社増加
○今後の予定社数の平均は 10.7 社。前年調査 (9.4 社) より 1.3 社多い

3. セミナー・会社説明会の参加状況

○オンライン形式への参加者は 84.3%、会場型は 30.7%。オンラインが大幅に増加
○参加したいセミナーは「社員と話せる場が設けられている」が最多 (68.6%)

4. 就職活動の中心とする企業規模

○採用減への不安から、大手狙いの学生は 2 年連続で減少 (58.0%→54.6%→51.2%)

5. 選考試験の受験状況

○ES 提出、筆記試験受験は 7 割超。面接試験は 6 割超。前年より 10 ポイント以上の上昇
○平均社数は、エントリーシート 5.5 社、筆記 4.3 社、面接 3.4 社。いずれも増加

6. 3 月 1 日現在の内定状況

○内定率は 21.1%。前年同期実績 (15.9%) を 5.2 ポイント上回る
○内定企業の 7 割強 (74.7%) が「インターンシップ参加企業」。前年 (69.3%) より増加

7. 今後の就職活動の方針と終了希望時期

○「気になる企業にはとりにあらずエントリー」が最多。「イベントにたくさん参加」が増加
○6 月下旬 (16.8%) が今年も最多。遅い時期のポイント増。長期戦を覚悟する学生も

8. 今後の景気予想

○「悪化する」が前年より 30 ポイント減少 (72.2%→42.1%)。回復を予想する学生が増加

9. 初期配属確約採用について

○配属部署・職種・エリアとも「決まっていると承諾しやすい」が 6 割近くに上る

調査概要

調査対象 : 2022 年 3 月に卒業予定の大学 3 年生 (理系は大学院修士課程 1 年生含む)
回答者数 : 1,305 人 (文系男子 425 人、文系女子 403 人、理系男子 335 人、理系女子 142 人)
調査方法 : インターネット調査法
調査期間 : 2021 年 3 月 1 日~4 日
サンプリング : キャリタス就活 2022 学生モニター (2016 年卒以前は「日経就職ナビ・就職活動モニター」)

1. 3月1日時点の志望業界

まず、解禁時点でどのような業界を志望しているのかを確認したい。

現時点で志望業界を「決めている」学生は 89.8%と約 9 割。2 月調査では 82.2%だったので、この 1 カ月で 7.6 ポイント増加した。

「決めている」と回答した学生に具体的な業界を尋ねたところ (40 業界から 5 つまで選択)、「情報処理・ソフトウェア」が最も多かった (17.9%)。ここに「情報・インターネットサービス」(17.3%) が僅差で続き、今期も IT 業界人気が続いている。とりわけ男子において順位が高い。

文理別に見ると、文系は「銀行」の人気が高く、男女ともに 1 位。特に文系男子は 3 割超 (30.7%) が志望し突出している。理系は IT とメーカーに人気分散。理系男子は「情報処理・ソフトウェア」が 1 位、「電子・電機」が 2 位。理系女子は「医薬品・化粧品」が 1 位で、「水産・食品」「素材・化学」が同率 2 位。

<志望業界の決定状況>

	全体	(前年全体)	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
決めている	89.8	88.2	85.9	90.1	93.1	93.0
決めていない	10.2	11.8	14.1	9.9	6.9	7.0

<志望業界(上位 20 業界)>

全 体		文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
1	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト ① 17.9	銀行 30.7	銀行 20.1	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト 25.3	医薬品・医療関連・化粧品 25.8
2	情報・インターネットサービス ② 17.3	運輸・倉庫 18.6	マスコミ 18.7	電子・電機 22.1	水産・食品 21.2
3	銀行 ④ 17.2	情報・インターネットサービス 17.8	商社(専門) 16.3	情報・インターネットサービス 20.2	素材・化学 21.2
4	建設・住宅・不動産 ⑥ 15.4	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト 16.7	建設・住宅・不動産 16.0	素材・化学 19.6	建設・住宅・不動産 20.5
5	水産・食品 ③ 14.6	保険 15.9	商社(総合) 15.4	自動車・輸送用機器 18.9	電子・電機 18.2
6	素材・化学 ⑥ 13.1	官公庁・団体 15.3	情報・インターネットサービス 14.6	機械・プラントエンジニアリング 16.3	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト 16.7
7	電子・電機 ⑧ 12.2	商社(総合) 15.1	水産・食品 14.0	水産・食品 14.1	情報・インターネットサービス 16.7
8	医薬品・医療関連・化粧品 ⑤ 12.1	建設・住宅・不動産 14.2	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト 13.2	建設・住宅・不動産 13.8	精密機器・医療用機器 10.6
9	官公庁・団体 11.9	調査・コンサルタント 13.7	医薬品・医療関連・化粧品 12.1	医薬品・医療関連・化粧品 13.8	マスコミ 10.6
10	マスコミ ⑨ 11.3	水産・食品 13.2	保険 12.1	精密機器・医療用機器 13.5	官公庁・団体 9.8
11	自動車・輸送用機器 11.2	マスコミ 12.1	官公庁・団体 12.1	エネルギー 11.9	調査・コンサルタント 9.1
	運輸・倉庫 11.2	商社(専門) 11.5	素材・化学 11.3	通信関連 10.3	自動車・輸送用機器 8.3
13	商社(総合) 11.1	自動車・輸送用機器 10.1	調査・コンサルタント 10.7	調査・コンサルタント 9.0	農業・林業・鉱業 7.6
14	調査・コンサルタント ⑩ 11.0	証券・投信・投資顧問 9.9	教育 10.5	官公庁・団体 8.3	機械・プラントエンジニアリング 7.6
15	商社(専門) 10.0	エネルギー 8.5	人材サービス・人材紹介・人材派遣 9.9	ゴム・ガラス・セメント・セラミックス 8.0	エネルギー 7.6
16	保険 9.7	信用金庫・労働金庫・信用組合 7.4	運輸・倉庫 9.1	運輸・倉庫 7.7	印刷・パッケージ 5.3
17	エネルギー 9.0	信販・クレジット・ファイナンス 7.4	電子・電機 8.8	鉄鋼・非鉄・金属製品 7.4	商社(総合) 5.3
18	機械・プラントエンジニアリング 8.1	通信関連 6.8	エネルギー 7.4	印刷・パッケージ 4.8	OA機器・家具・スポーツ・玩具他 4.5
19	精密機器・医療用機器 7.3	素材・化学 6.3	信用金庫・労働金庫・信用組合 7.4	農業・林業・鉱業 4.2	通信関連 4.5
20	通信関連 7.0	農業・林業・鉱業 6.0	その他サービス 7.4	商社(総合) 3.8	運輸・倉庫 4.5
				商社(専門) 3.8	

※○の中の数字は前年同調査の全体順位10位以内

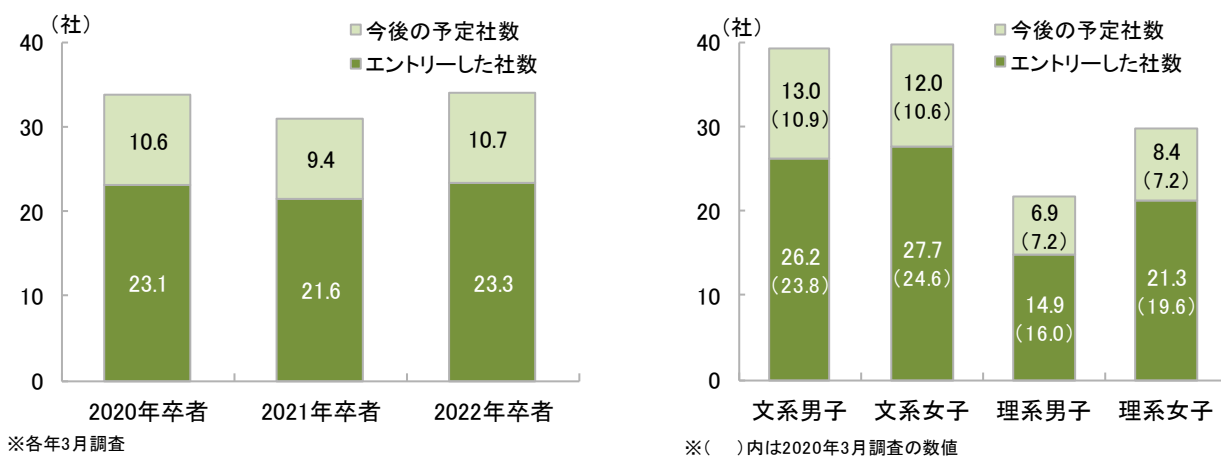
2. エントリー状況

3月1日時点のエントリー状況について、エントリーした社数と今後の予定社数を尋ねた。

一人あたりのエントリー社数の平均は23.3社で、前年同期実績(21.6社)を1.7社上回った。今後のエントリー予定社数に関しても平均10.7社と、前年調査(9.4社)より多い。これまで売り手市場を背景に、一人あたりのエントリー社数は減少傾向にあったが、コロナ禍で増加に転じた。

これを文理男女別に確認すると、文系男女と理系女子は前年より多くの企業にエントリーをしているが、理系男子は前年実績を下回る(16.0社→14.9社)。今後の予定社数も少なく(6.9社)、理系男子において企業の絞り込みが進んでいる様子が見て取れる。

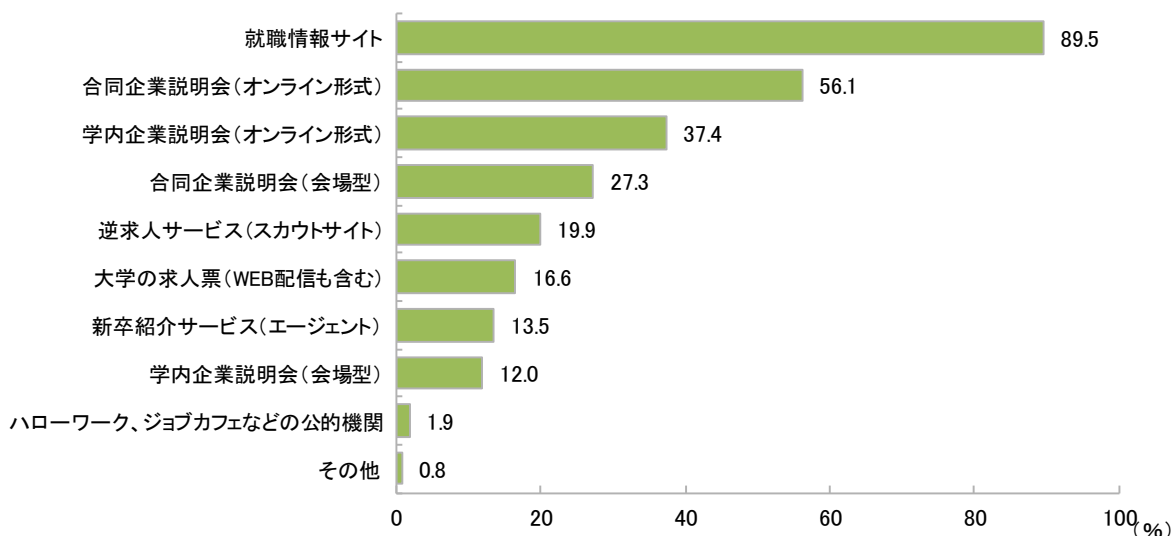
＜エントリー社数＞



今後新たな企業にエントリーを予定している学生に、企業を探す手段を尋ねた。

最も多かったのは「就職情報サイト」で、約9割(89.5%)が企業探しに活用していると回答した。次いで「合同企業説明会(オンライン形式)」「学内企業説明会(オンライン形式)」「(37.4%)と続く。対面での接触が制限される中で、WEBを情報収集や企業探しの拠り所と考えている学生が多いことがわかる。

＜新たな企業を探す手段＞

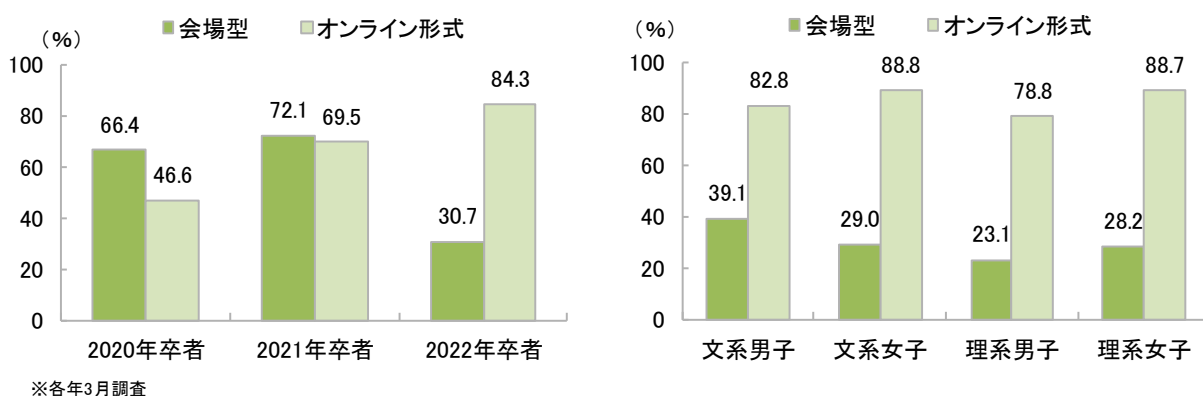


3. セミナー・会社説明会の参加状況

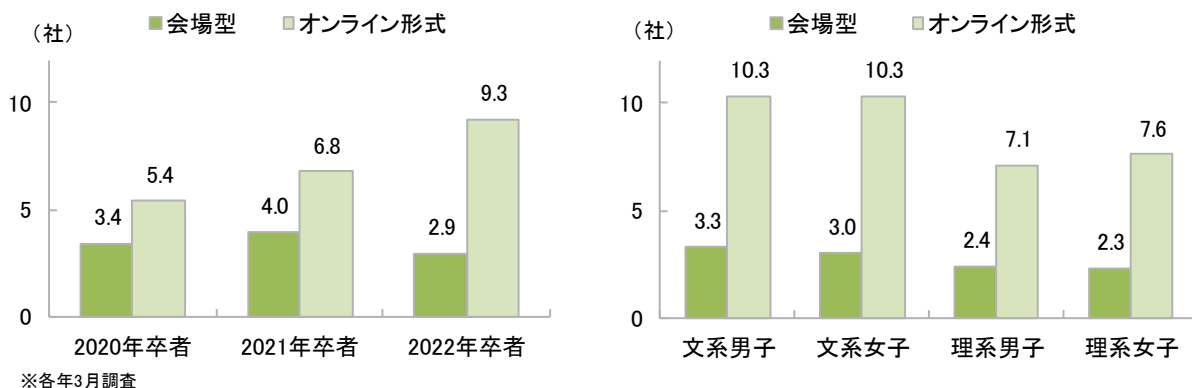
会社説明会（個別企業のセミナー）の参加状況を、開催形式ごとに確認した。「オンライン形式（WEBセミナー）」に参加経験がある学生は全体の8割以上（84.3%）に上っている。従来の会場型は3割にとどまり（30.7%）、前年同期の実績（72.1%）を大幅に下回った。参加社数についてもオンラインが圧倒的に多く、会場型2.9社に対しオンライン形式は9.3社と3倍以上に上る。会場型は実施企業が減少しているのに加え、感染防止のため小規模での開催となっていることも影響しているのだろう。

今後何社くらいの参加を予定しているのかについては、形式を問わず尋ねた。社数の分布を見ると、ボリュームゾーンは前年と同じく「1~5社」だが、6社以上の割合が増えている。平均すると8.7社で、前年（7.2社）を1.5社上回る。エントリーと同様に、増加に転じる様子が見て取れる。

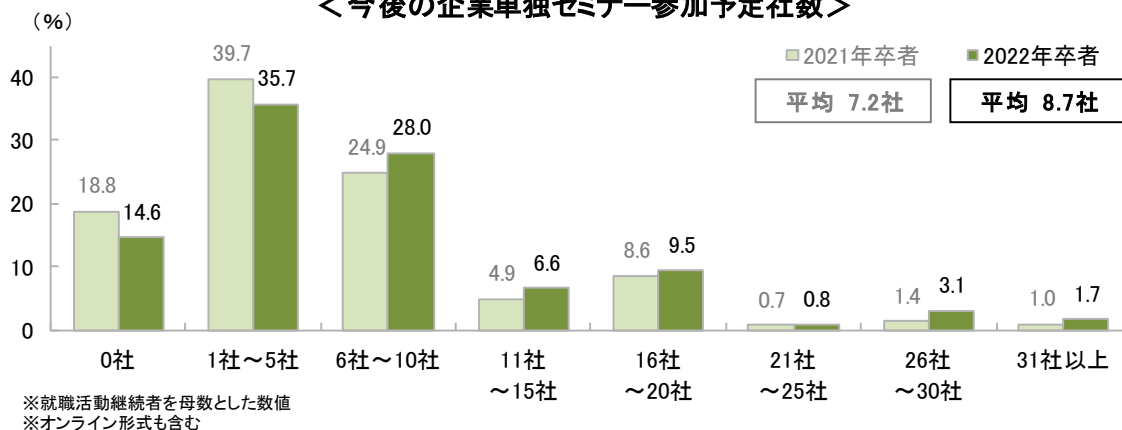
<セミナー参加・視聴経験>



<セミナー参加・視聴社数>

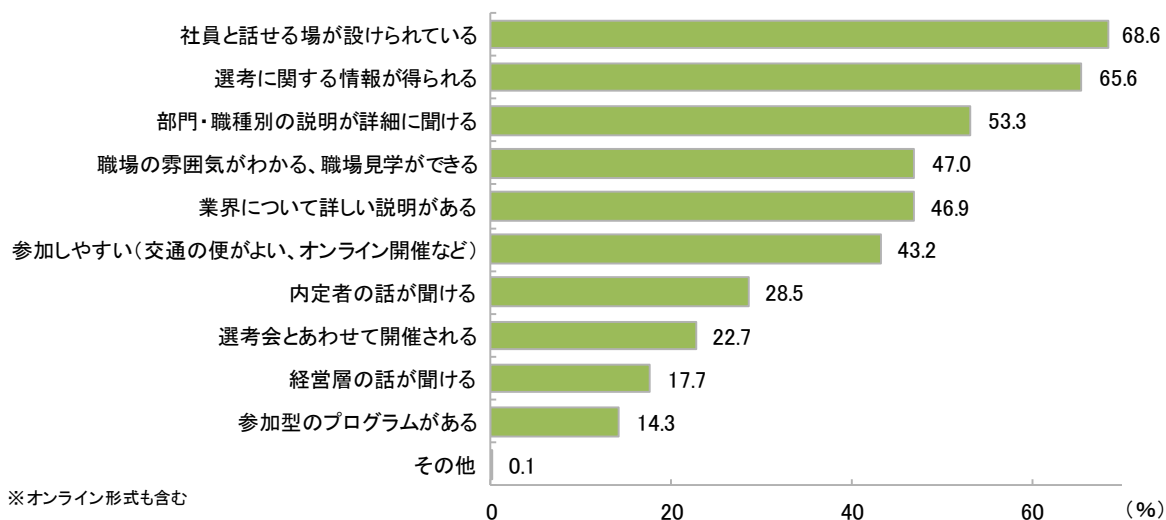


<今後の企業単独セミナー参加予定社数>



どのような内容の企業セミナーに参加したいかを尋ねたところ、「社員と話せる場が設けられている」が最も多く (68.6%)、「選考に関する情報が得られる」(65.6%) も6割を超えている。本選考に進む前の情報収集の場として捉えられていることがうかがえる。そのほか、「職場の雰囲気わかる、職場見学ができる」も半数近くに上るなど、セミナーに参加することで社風を感じ取りたいとの意向も感じられる。一方で、「参加しやすい」も4割を超えており (43.2%)、会場型であれオンラインであれ、アクセスのよいものに気軽に参加したいと考える層が一定数見られる。

＜参加したいと思う企業セミナー＞

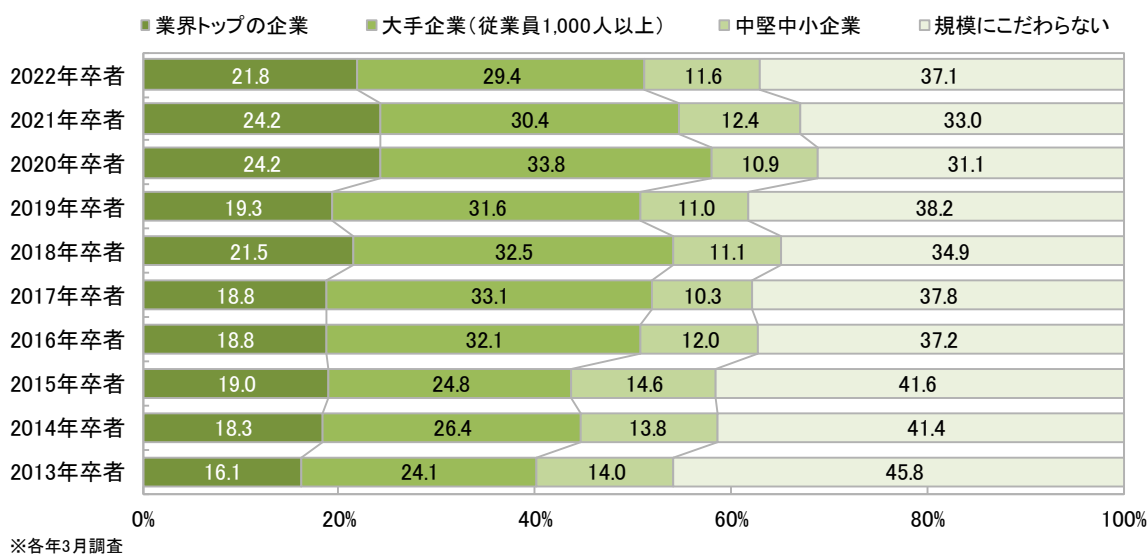


4. 就職活動の中心とする企業規模

就職活動の中心とする企業の規模については、「業界トップの企業中心」21.8%、「大手企業を中心」29.4%と、いわゆる大手狙いの学生は約5割 (計51.2%)。前年調査 (計54.6%) より3.4ポイント減少した。大手志向の学生は依然多いものの、2020年卒者をピークに減少に転じている。

一方、採用減への不安などから「規模にこだわらない」という学生が増加し、今回調査では約4割 (37.1%)。

＜就職活動の中心とする企業規模＞



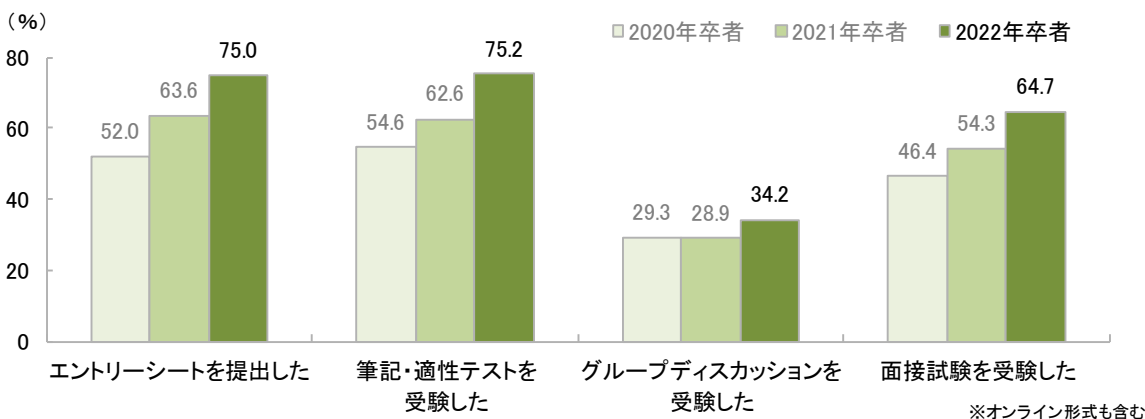
5. 選考試験の受験状況

選考試験（本選考）の受験状況を見てみよう。

エントリーシート（ES）を提出した学生は全体の 75.0%と、早くも 4 人に 3 人が提出経験をもつ。前年同期調査より 10 ポイント以上増加しており、提出のタイミングは一段と早まった。一人あたりの提出社数についても前年同期を上回る（平均 4.3 社→5.5 社）。

筆記・適性テストを受験した学生も 7 割を超え（75.2%）、面接受験者が 6 割強（64.7%）に上るなど、選考受験率の上昇が目立つ。インターンシップや仕事研究プログラムから早期選考に進むケースが増えたことが影響していると思われる。

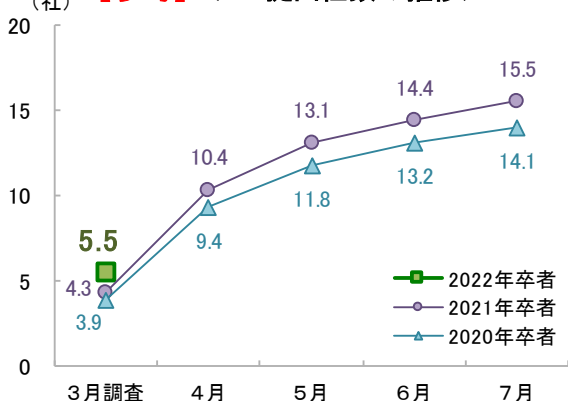
＜選考試験の受験状況＞



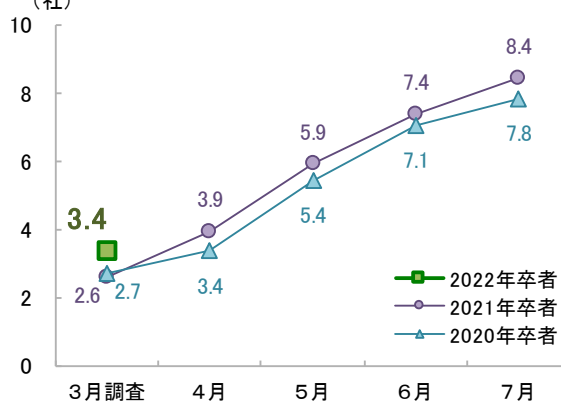
＜選考試験の受験社数＞

	(社)					
	全体	(前年全体)	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
エントリーシート	5.5	4.3	6.1	5.7	4.9	4.4
筆記・適性テスト	4.3	3.0	4.9	4.2	3.9	3.6
グループディスカッション	2.3	2.0	2.6	2.3	2.2	1.6
面接試験	3.4	2.6	4.0	3.4	2.9	2.8

【参考】＜ES提出社数の推移＞



【参考】＜面接試験受験社数の推移＞



6. 3月1日現在の内定状況

3月1日の就活解禁時点で、すでに内定を手にしてという学生は全体の21.1%に上った。前回調査(13.5%、2月調査)からの1カ月間に7.6ポイント上昇し、前年同期実績(15.9%)を5.2ポイント上回った。現在の日程ルールは6年目を迎えるが、3月の内定率が2割を超えるのは初めて。

内定企業の7割強(74.7%)がインターンシップ(※)に参加した企業で、前年調査(69.3%)を上回る(グラフは次ページに掲載)。インターンシップから早期内定につながる傾向が強まった。また、内定を得るまでに、セミナーや面接などで対面での接点があったのかを尋ねると、「一度もない(WEBのみ)」が52.0%で、直接会う機会がないまま内定に至ったケースが過半数に上っている。

なお、内定取得学生のうち、就職先を決めて就職活動を終了したのは15.3%で、大半は内定を得ても就職活動を継続していると回答。モニター学生全体を分母にとると、就活終了者(就職先決定)は3%程度。

(※1日以内のプログラムも含めて調査)

<3月1日現在の内定状況>

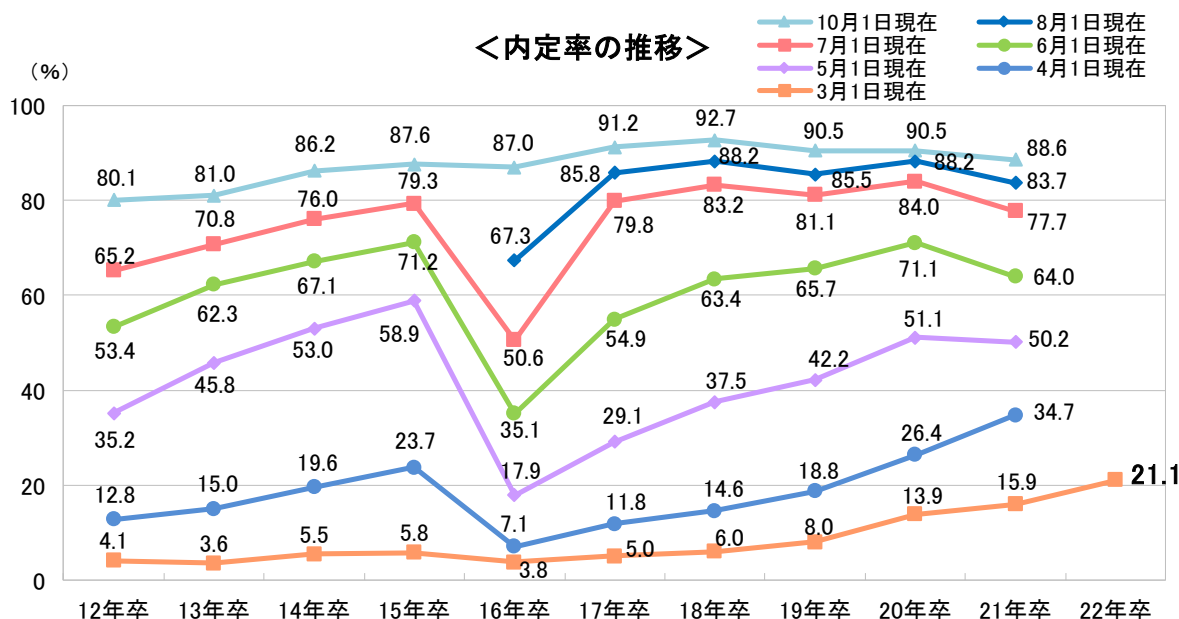
*「内定」には、内々定を含む (%)

		全体	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
内定あり		21.1 (15.9)	20.2 (13.2)	20.3 (14.2)	23.0 (18.5)	21.1 (22.0)
内定なし		78.9 (84.1)	79.8 (86.8)	79.7 (85.8)	77.0 (81.5)	78.9 (78.0)
内定者のうち	就職先を決定し活動終了	15.3 (14.0)	7.0 (15.3)	13.4 (15.3)	20.8 (11.6)	30.0 (14.3)
	活動は終了したが複数内定保持	1.1 (2.7)	0.0 (0.0)	1.2 (5.1)	1.3 (0.0)	3.3 (8.6)
	進学などの理由で就職活動を中止	0.4 (0.0)	0.0 (0.0)	0.0 (0.0)	1.3 (0.0)	0.0 (0.0)
	就職活動継続	83.3 (83.3)	93.0 (84.7)	85.4 (79.7)	76.6 (88.4)	66.7 (77.1)

(社)

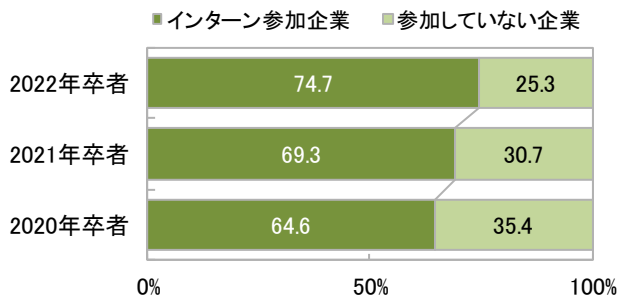
		全体	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
内定社数/平均		1.3 (1.4)	1.3 (1.5)	1.4 (1.2)	1.4 (1.3)	1.3 (1.3)

※ () 内は前年(3月1日現在)の数値



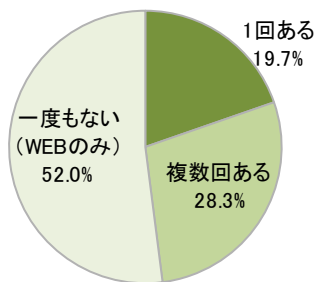
※15年卒までは選考解禁は4月、16年卒は8月、17~22卒は6月 ※15年卒以前は8月のデータはなし

<内定を得た企業のインターン参加>



※1日以内のプログラムも含む

<内定を得た企業の対面での接点>

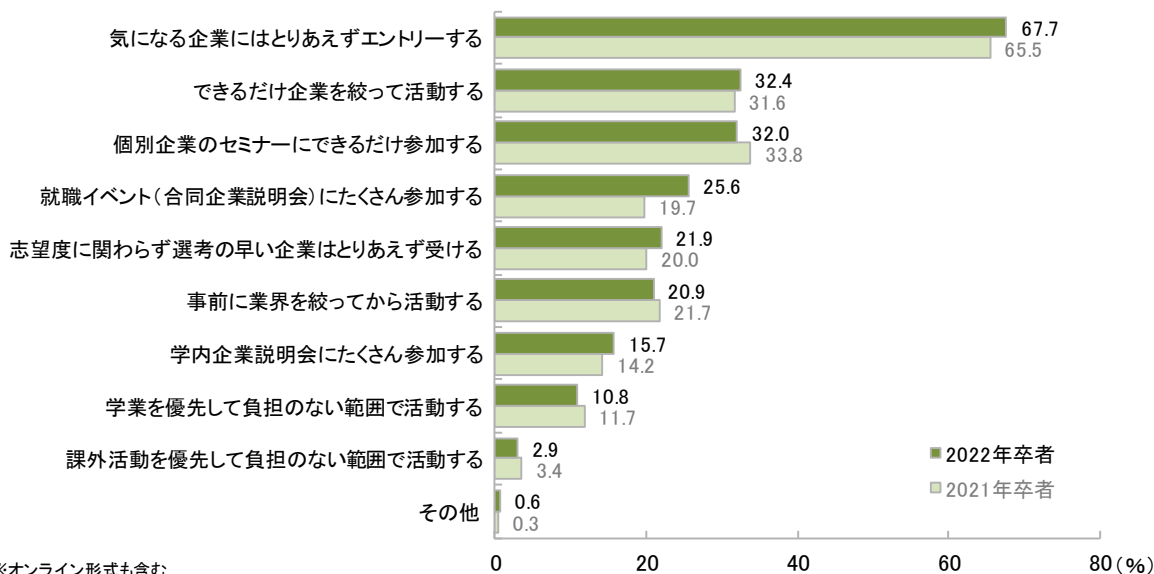


※インターン、セミナー、面接などでの接点

7. 今後の就職活動の方針と終了希望時期

就職活動の方針を尋ねたデータを2カ年で比較した。「気になる企業にはとりあえずエントリーする」が今年も圧倒的に多く、割合もやや増えた (65.5%→67.7%)。ここに「できるだけ企業を絞って活動する」「個別企業のセミナーにできるだけ参加する」が3割強で続く。前年との大きな変化は見られない中、「就職イベントにたくさん参加する」が約6ポイント増加。オンライン形式での開催が増えたことで、参加のハードルが下がったことも影響していると思われる。

<3月1日時点の就職活動の方針>

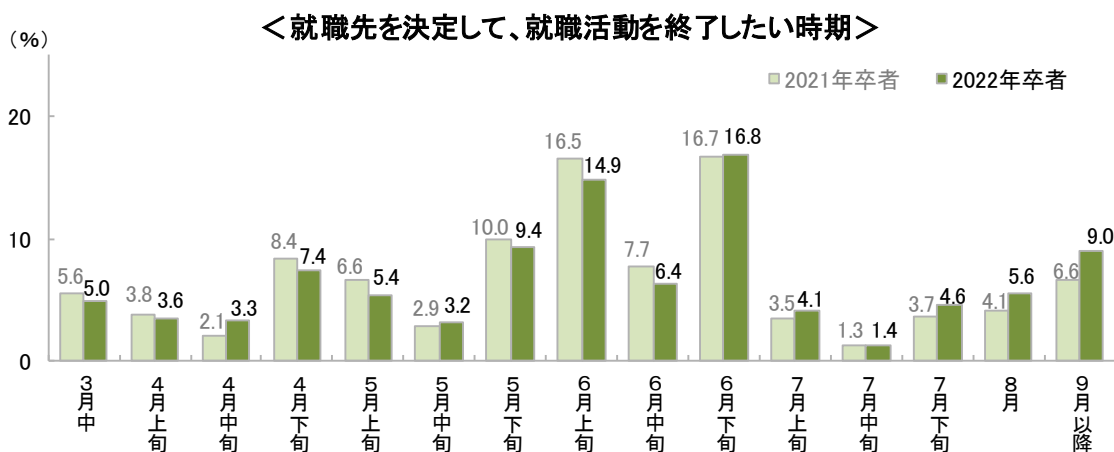


※オンライン形式も含む

■今後の活動方針について

- 就職活動において最も必要なものが情報の質、及び量だと思うため、就職情報サイトやオンラインイベント、オフラインイベントを通して就職活動を有利に進めていきたい。 <文系男子>
- 内定が取れるか不安。エントリーする数を絞りたいが、もしそれで落ちた時不安なのでできるだけ多めに受けないといけないと考えてしまう。 <理系男子>
- 今後も積極的に企業独自のセミナーに参加し、自身のキャリアビジョンを明確にしていきたいと思う。 <理系女子>
- 志望度の高い企業しか受けたくない気持ちは大きいですが、そこまで絞ってしまっても大丈夫なのかという不安が大きい。 <文系女子>

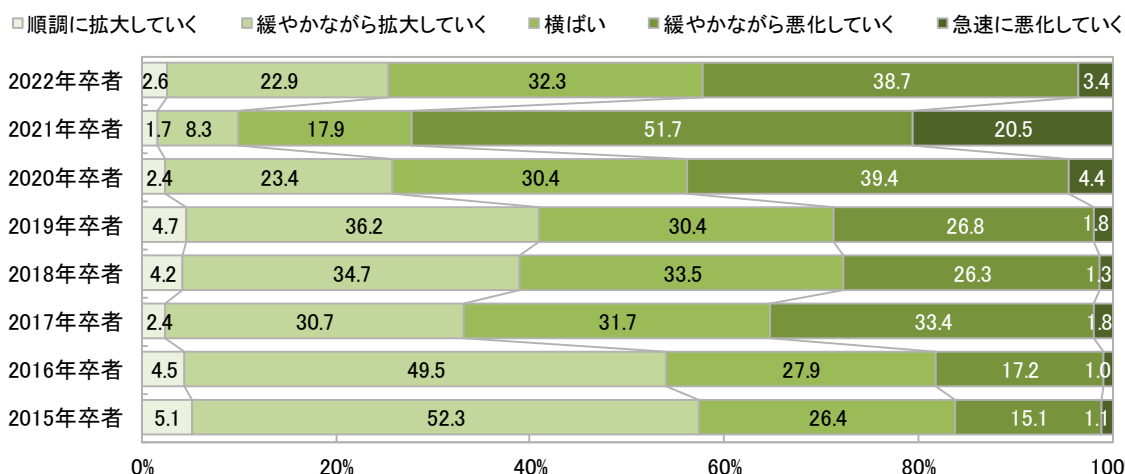
就職先を決定して就職活動を終了したいと思う時期を尋ねた。最も多いのは前年調査同様「6 月下旬」(16.8%)。ただし、「6 月上旬」が前年より 1.6 ポイント減少するなど、早い時期のポイントが全体的に減少。その分、「6 月下旬」以降のポイントが増加し、現時点で「9 月以降」と回答した学生も 1 割近い (9.0%)。今年は早期から高い内定率をマークするなど、例年以上に早い動きを見せる就職戦線だが、早期に終了するよりも、納得のいく就職先を見つけるために長期戦を覚悟する学生も少なくないうようだ。



8. 今後の景気予想

今後の日本の景気予想を尋ねた。前年調査では、新型コロナの感染拡大が深刻化する中、「急速に悪化」という見方が 2 割に上り、「緩やかながら悪化」を合わせて 7 割超が「悪化していく」と回答していた (計 72.2%)。今年は「悪化していく」の合計は約 4 割で (計 42.1%)、前年より 30 ポイント減少。その分、「緩やかながら拡大」が前年の 8.3% から 22.9% に増加した。ワクチンの普及が見込まれることなどから、一時的に落ち込んだ経済も、今後は回復していくと予想する学生も一定数見られる。

<今後の日本の景気予想>



○現在はコロナの影響で社会全体が不景気に陥っていますが、新規感染者の数も緩やかになってきて、ワクチンの接種も始まったので、今後は経済の軌道修正が入ると思う。 <文系男子>

○コロナの感染が第 4 波、第 5 波となれば景気が回復することはないと思う。 <文系女子>

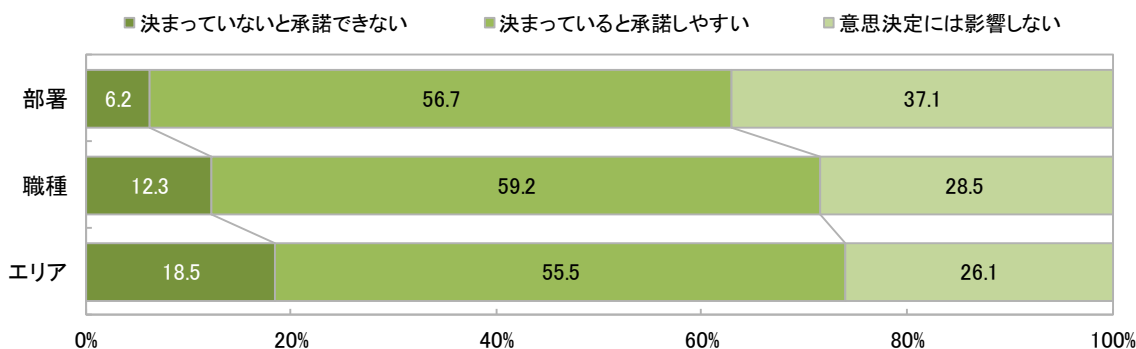
9. 初期配属確約採用について

初期配属を確約した採用を導入する企業の動きもみられるが、学生はどのように感じているのだろうか。入社後の最初の配属先が決まっていることが、内定承諾の意思決定に影響するかどうかを、部署・職種・エリアについてそれぞれ尋ねた。

いずれの項目でも「決まっていると承諾しやすい」が 6 割近くに上り、自分の働く姿がイメージしやすいので安心して承諾できるという意見が多く挙げられた。「決まっていないと内定承諾できない」の割合が最も高い項目は「初期配属のエリア」で、2 割弱 (18.5%)。「決まっていると承諾しやすい」を合わせて 4 人に 3 人は意思決定に影響すると回答した。

「意思決定には影響しない」という学生からは、異動を前提に、長いキャリアのうちの初期配属は重視しないとといった声や、内定後に企業側に適性を判断して配属先を決めてほしいという意見が寄せられた。

＜入社後の初期配属が決まっていることが内定承諾に影響するか＞



■内定承諾にあたり、初期配属を重視する学生の声

- 自分のしたいことが明確にあるため、そのミスマッチは防ぎたい。 <文系女子>
- 職種を軸に就職活動しているので、職種は決まっていると承諾できない。その他は、できれば決まっていた方が良いが、必須ではない。 <理系男子>
- 内定を複数持っている場合は、職種や部署を確約してくれた企業の方が魅力的。 <文系男子>
- 希望が通るかどうかで、入社先を選びたい。自分のキャリアビジョンに合う会社に行きたい。 <文系女子>
- 大学生のうちに、どのようなキャリアが描けるか具体的に想像したいため。また早いうちに磨くべきスキルを知っておきたいから。 <文系男子>
- ワークライフバランスを考え、地元に近い企業に就職したいから。 <文系女子>
- 特に勤務地は今後のライフプランに大きく影響すると考えるから。 <理系男子>

■内定承諾にあたり、初期配属を重視しない学生の声

- ジョブローテーションが多い業界を見ているので、初期配属などはあまり気にならない。 <理系女子>
- 総合職として全国どこでも働くつもりです。 <文系男子>
- すべて重要な要素ではあるが、これだけで入社を意思決定をするわけではない。 <文系男子>
- 自分の適性がわからないため、企業に委ねて、与えられた環境で努力をしようと思っている。 <文系女子>
- 部署や所属については、研修期間中に判断してほしいと考えている。 <文系男子>
- どの部署や職種になっても、仕事をやってみなければ実際どのようなものかわからないし、後に行きたい部署に行くための経験になると思うから、意思決定には影響しない。 <理系女子>
- 将来的にやりたいことに携われるなら、初期の配属に関心は低い。 <理系男子>